

1. 研究課題名

大量アルケラン療法後の二次発癌に関する研究

2. 試料・情報

(1) 利用目的

自家末梢血幹細胞移植併用大量アルケラン療法（自家移植）は、多発性骨髄腫や原発性アミロイドーシスなどの形質細胞腫瘍に対しての有用な治療法です。これらの形質細胞腫瘍は予後不良な疾患ですが、近年になりプロテアソーム阻害薬・免疫調整薬・抗体医薬など新薬の有効性が示され、生命予後は改善しつつあります。一方でアルケランはアルキル化剤の一種であり、二次発癌のリスクを高めることが知られています。自家移植後の予後が長期化するに伴って二次発癌の発生率も上昇すると考えられますが、詳細なことは分かっていません。そこで、今回我々は自家移植を行ったのち当科でフォローを継続している症例について、二次発癌の発生について調査を行うことに致しました。

本研究により移植後の二次発癌の頻度、リスク因子、二次発癌発生後の予後などを見出し、今後の治療方針決定に役立てていくことが本研究の目標です。

(2) 利用項目、提供方法

本研究は、2003年4月から2023年3月の間に自家末梢血幹細胞移植を受けた、形質細胞腫瘍（多発性骨髄腫、ALアミロイドーシス）の患者さんを対象として、診療記録を利用して行います。

利用する情報は、患者さんの年齢・性別・既往歴などの背景因子、自家移植に関する情報、疾患の治療情報、二次発癌の有無とその疾患種類、二次発癌の発症時期、生存状況などです。利用を開始するのは、本研究が承認された日以降です。

(3) 利用する者の範囲

日本赤十字社医療センター 血液内科 小倉瑞生

(4) 管理責任を有する者の名称

日本赤十字社医療センター

3. 参加を希望されない場合等

本研究への参加を希望されない場合や本研究参加についてのご相談がある場合は、以下へご連絡ください。本研究への参加を希望されない場合でも、不利益を被ることはありません。

4. 問い合わせ先

日本赤十字社医療センター

〒150-8935 東京都渋谷区広尾 4-1-22

TEL: 03-3400-1311 FAX: 03-3409-1604

担当: 血液内科 小倉瑞生